

Ⅱ 国

語

正答表並びに採点上の注意

(令和八年度)

問三								
(ケ)	(ク)	(キ)	(カ)	(オ)	(エ)	(ウ)	(イ)	(ア)
3	3	2	1	2	4	2	1	3
4点	4点	4点	4点	4点	4点	2点	2点	2点

問二					
(カ)	(オ)	(エ)	(ウ)	(イ)	(ア)
4	1	3	4	2	1
4点	4点	4点	4点	4点	4点

問一								
(ウ)	(イ)				(ア)			
	d	c	b	a	d	c	b	a
3	4	1	2	2	3	1	2	4
4点	2点	2点	2点	2点	2点	2点	2点	2点

問五																																																	
(イ)									(ア)																																								
(イ)は正答例。 え。ることが大切だとい	<table border="1" style="display: inline-table; text-align: center;"> <tr> <td>狭</td><td>ま</td><td>現</td><td>一</td><td>を</td><td>具</td><td>あ</td><td>で</td> </tr> <tr> <td>い</td><td>ら</td><td>を</td><td>流</td><td>表</td><td>体</td><td>る</td><td>真</td> </tr> <tr> <td>枠</td><td>な</td><td>求</td><td>の</td><td>面</td><td>の</td><td>も</td><td>似</td> </tr> <tr> <td>に</td><td>い</td><td>め</td><td>作</td><td>的</td><td>裏</td><td>の</td><td>る</td> </tr> <tr> <td>収</td><td>表</td><td>、</td><td>品</td><td>な</td><td>に</td><td>ま</td><td></td> </tr> </table>								狭	ま	現	一	を	具	あ	で	い	ら	を	流	表	体	る	真	枠	な	求	の	面	の	も	似	に	い	め	作	的	裏	の	る	収	表	、	品	な	に	ま		4
	狭	ま	現	一	を	具	あ	で																																									
い	ら	を	流	表	体	る	真																																										
枠	な	求	の	面	の	も	似																																										
に	い	め	作	的	裏	の	る																																										
収	表	、	品	な	に	ま																																											
<p>作品制作において自身の表現の幅を広げるには、</p>																																																	
6点									4点																																								

問四			
(エ)	(ウ)	(イ)	(ア)
4	1	3	2
4点	4点	4点	4点

採点上の注意

【問題全般について】

- 中間点は、問五(イ)以外には設けないこと。
- 疑問点は複数の採点者及び点検者によって判断し、校内で統一すること。
- 誤字・脱字（指定語句及び句読点に係る誤りを含む）の判断については、校内で統一すること。

【中間点のある記述問題について】

- 正答例以外であっても、与えられた条件をすべて満たし、問題の趣旨に即した文ならば、正答として六点を与える。
- 内容については、中間点を設けないこと。
- 誤字・脱字（指定語句及び句読点に係る誤りを含む）については、その数にかかわらず二点減点とする。
- 表現に問題があり、それによって明らかに問題の趣旨から外れている、内容を読みとることができない等の場合は、誤答とする。ただし、許容できると判断した場合は、その数にかかわらず二点減点とする。表現の問題については、複数の採点者及び点検者によって判断し、校内で統一すること。
- 中間点は、誤字・脱字（指定語句及び句読点に係る誤りを含む）がある場合と、表現に問題がある場合の減点以外は設けないこと。したがって、中間点は四点または二点となる。
- 指定語句がある場合、その語句が含まれていない解答は誤答とする。

○ 問五(イ)について

- ・ 指定語句は「**粹**」と「**表面的**」である。

得点項目A

内容については、次の二点に触れていること。

- (あ) 「狭い」 粹に収まらない表現を求める「こと」。
- (い) 「一流の作品を」 表面的な具体の裏にあるものまで真似る「こと」。

〈正答例〉

作品制作において自身の表現の幅を広げるには、
自分の関心の**粹**を広げつつ、尊敬する人の作品を**表面的な具体の**裏にある思想まで真似る
ことが大切だといえる。 30

作品制作において自身の表現の幅を広げるには、
一流の人を**表面的な部分にとどまらないところも真似ることと**、**粹**を越えた表現を求める
ことが大切だといえる。 40